

鎌倉 パートナーズ



(光明寺の蓮 / 西畑直樹)

鎌倉市市民活動センター 広報紙 第87号 平成30年6月発行(季刊)

発行/編集: 鎌倉市市民活動センター

<http://npo-kama.sakura.ne.jp/ce/index.html>

リレートーク No7

こんな市民活動しています!

～ 子どもの輝く未来のために ～



城田輝三さん

NPO 法人 SeedsAPP 代表
<http://seeds-app.com/>

リレートークとは: 鎌倉市で市民活動に取り組む人とその団体にスポットをあて、活動の様子を紹介するコーナーです。鎌倉らしい活動をされている方、地道にコツコツと頑張っておられる方がお近くにいらっしゃいましたら、リレーの輪に加わっていただきたいと思います。是非、お知らせください。

当団体の創設メンバーは私立高校の元教員です。教員生活の中で、不登校や発達障害がある子どもなど、従来の教育では十分にその能力を伸ばしきれない大勢の子どもたちを見て参りました。彼らの多くは、素晴らしい感性や能力をもちながらも、繊細な神経や独特な個性ゆえに学びづらさや生きづらさを感じていたりします。

そんな彼らが幼少期から無理解の環境の中で、誤解をされたり、無用な叱責にさらされたりして、心に大きな傷を負って高校に入学してくることもありました。中には、すっかり自信や意欲を失い、精神的につらい高校生活を過ごし、天賦の才をもちながらも「僕は将来を描くのが苦手です。」と言って、道筋をつけられないまま卒業をしていった子どももいました。もっとしてあげられたことがあったのではと申し訳ない気持ちでいっぱいになります。

そのような多様な教育的ニーズをもつ子どもの課題は、学校のみでは解決しづらく、学校と学校外がしっかりと連携する中から社会全体で解決の糸口を見つけなければいけないと感じています。そんな思いから、仲間と共に平成29年6月NPO法人不登校・発達支援ネットワーク SeedsAPP を設立いたしました。

現在、当団体では、不登校の子ども支援の「フリースクール Seeds」と、学習が遅れがちな子どものための「学び方教室 BB」を運営しています。一人ひとりの子どもに合った「学び方」をデザインすることはとても大切だと考えています。学習障害やその周辺の子どものたちにとって「授業の内容がわからない」ことが、自尊心や人間関係、生活態度にも影響しているからです。また、学習の遅れは、不登校の原因であると同時に、登校復帰を妨げる要因にもなっているからです。

「子どもは未来の社会そのものである」私たちはそのような認識のもと、社会全体の総力を子どもに注力させるべく、ありとあらゆる人的資源や学習資源の活用ネットワークを構築して参ります。



特集

市民活動団体間の連携（コラボ）～団体と団体をつないで さらなる活動の広がりを～

ひとつの団体では資金面や人材面で活動が難しい問題にもいくつかの団体がお互いの強みを出し合って協力することで取り組めることがあります。また複数の団体が一緒に活動した結果、効率があがったり、これまで得られなかった気づきがあり、メンバーの成長につながるなど、思わぬ効果が得られることがあります。

今号ではそのような団体間のコラボレーション活動の好事例をご紹介します。

<事例1>

「常盤山での竹林整備」

私たちの活動の場である北条氏常盤亭跡周辺の丘陵部には、源氏の血脈が絶えた後 130 年に亘って幕府体制を維持した北条氏一族の営みの跡と豊かな自然が手つかずの状態に遺っていて、多くの緑と歴史資産がげんげしい都市化の波によって破壊された鎌倉にあって、自然と歴史が残る数少ない場所となっています。

このため、いくつかの市民団体が緑と植生の保護・歴史資産の保全・散策路の整備などを行っています。これらの団体にとって共通の悩みは、竹林の侵食によって山桜など地域固有の植栽が破壊されていることです。竹の侵食状態をドローンで空撮したところ、凡そ 12 ヘクタールの広さが真竹や孟宗竹の侵食によって荒れるに任されていることが判りました。

そこで今年は複数の団体にお声がけして、竹の子が生える時期に若竹を駆除する会を計画しました。場所は孟宗竹がはびこって樹齢 200 年以上の山桜の古木などを枯らしている桔梗山の山頂周辺。地権者の県に許可を求めたところ竹の子を販売するなどの商行為をしなければ良いとのことでしたので、駆除した竹の子は参加者にお持ち帰りいただくこととしました。声掛け団体は、通年ベースでこの場所で竹駆除や植生保全を行っている「山桜を守る会」と「鎌倉常盤山の会」でしたが、「梶原山町内会」、「常盤町内会」など地元町内会、及び「鎌倉、峯山の会」、「馬のいる街プロジェクト」などからも参加を得て、この 4 月に 4 回の作業を行って沢山の竹を駆除し、同時に協働の輪をつくることになりました。



(鎌倉常盤山の会 鈴木昭正)

<事例2>

「かまくら磨き」



認知症の人と市民、中高生や介護関係者が協働して鎌倉の町をきれいにする活動「かまくら磨き」では、グリーンベストを着用して、街中の生活道路の壁などの清掃に汗を流しています。

企画と人集めを担当しているのは「かまくら認知症ネットワーク」、道路を管理する行政機関への届け出を担当しているのは「鎌倉を美しくする会」代表の高田さん。「鎌倉学園インターアクト部」の生徒さんの若い力も借りることで、スムーズに作業を進めることができています。「ボランティア活動だからって勝手にやっていいものではないんですよ」と高田さん。鎌倉学園

インターアクト部の生徒さんも、「認知症の人のイメージが変わりました、自分たちより手際よく動ける人もいて驚きました」と感想を言ってくれています。

認知症のご本人さんも「きれいになるのは気持ちいいですね」と口々に話してくれます。それぞれ目的の違う団体同士ですが、協働することで大きな効果が生まれています。この活動はもう 5 年以上続いています。

(一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク 稲田秀樹)

<事例3>

「世界を変えるための 17 の目標」を市民活動の目標に



2015 年に国連で 193 カ国の合意を得て、世界の共通目標が採択されました。それが SDGs (Sustainable Development Goals) です。これまで「持続可能な開発 (Sustainable Development)」という考え方はありましたが、なかなか行動が伴わなかった。そこで新しく 2030 年に向けた世界を変えるための 17 の目標 (Goals) を定めることで方向付けと行動計画が具体的になりました。

一方、国連機関のユネスコ (UNESCO) は、教育 (Education)、科学 (Science)、文化 (Culture) を通じ

た相互理解で人々の心の中に平和の砦を築き、地球規模の共生社会を実現することを目指していますが、SDGs はまさにユネスコの目標と言い換えてもよいぐらい価値観の重なるところがあります。そしてこうした新しい価値観が世の中に受け入れられるには一人一人が変わらなければならず、個人の変容なしに社会の変容はありません。そこでは教育の力が必要です。

こうした背景から、鎌倉ユネスコ協会は SDGs の考え方を鎌倉で広める「草の根運動」の旗振り役になろうと考え、市民を対象にした塾を開く準備を始めました。この塾ではアクティブラーニングの手法を取り入れ、グローバルな目標を紐解くことでローカルな活動に結びつけることを狙いとしています。

SDGs の目標は、どこか遠い国の支援という話だけではなく、実は日本の身近な社会問題である「少子高齢化」「貧困格差」「働き方改革」「女性の活躍」「いじめ」「待機児童」「教育の在り方」「食の自給率」「フードロス」「気候変動」「生物多様性」「陸域および海洋の保全」などに深く関わっています。

これらの問題はすでに市民活動団体の皆さんが取り組んでいる問題にほかならず、地域での草の根運動の広がりには皆さんの協力が是非とも必要です。また共通の目標を介して団体間の連携が進むことでシナジー効果が生まれることも期待しています。

(鎌倉ユネスコ協会 石田喬也)

※6月30日に「かながわSDGs湘南キックオフ・フォーラム」が鎌倉商工会議所ホールで開催されます。ご興味ご関心のある方は是非ご参加ください。(詳細は同封のチラシをご覧ください)

<今年の「かまくらファンド」はコラボ活動大歓迎！>

「かまくらファンド公開審査会」は例年通り 11 月 3 日にたまなわ交流センターで開催します。NPOセンターの 20 周年記念事業の一環としてテーマ『和をつなぐ。輪をひろげる。』に沿って、従来の単一団体の活動に加え、団体同士の協働事業または事業目的の異なる団体の連携も歓迎します。助成総額も増額されています。

個人・団体に関わらず、大いにアイデアを出していただき、新しい活動の波がひろがることを期待しています。

- ◆応募受付は 9 月 1 日から 29 日
- ◆応募の手引き・申込書はホームページからダウンロード
- ◆お問合せは NPO センター鎌倉へ

センターからのお知らせ

平成30年度登録団体関係行事

- ☆利用登録団体懇話会
6月23日(土)、10月20日(土)、H31年1月26日(土)
会場：たまなわ交流センター2階
- ☆JR 鎌倉駅地下道ギャラリーパネル展
4月に終了しました。
- ☆かまくら市民活動フェスティバル
8月25日(土)～26日(日)
- ☆NPO支援かまくらファンド審査会
11月3日(土・祝)
- ☆鎌倉パートナーズ発行
6月、9月、12月、H31年3月

「ゆうメール」集荷の件

NPOセンター鎌倉でご利用いただいていた「ゆうメール」の集荷方法が変更になりました。別紙「集荷について」のお知らせをご覧ください、ご協力ください。

利用登録団体の登録情報確認をいたします

「鎌倉パートナーズ86号」でお知らせしましたように、NPOセンターに登録されている団体の登録情報を確認いたします。広報紙と共にお送りした記入用紙にご記入の上、FAX(61-3928)いただくか、NPOセンター来館時にお持ちください。

また、29年度の年間活動報告も記入用紙に記入し、同時に提出してください。

年間活動報告は毎年提出していただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

スタッフ紹介

2月より、センタースタッフとして穂谷恭子が勤務しています。二階堂在住です。よろしくお願いいたします。

編集後記：今回のパートナーズは市民活動団体の連携を取材しました。単独では難しい企画が、どこかと手をつなぐことで実現することもあります。意外な結びつきが思わぬ成果を生み出すこともあります。NPOセンター設立20周年プロジェクトでは、複数団体がコラボしての活動を支援するファンドも予定しています。今年はどこかとつながってより大きなものを実現してみませんか？橋渡しのお手伝いができれば幸いです。(麻)

市民活動団体のための講座がおこなわれました

- 市民活動団体のためのマネジメント講座
～団体資金の考え方と助成金制度の使い方
3月18日(日)NPOセンター鎌倉 参加11名

団体内で助成金の必要性を共有し、活動に合った助成金プログラムを見つけるための基本を学びました。

終了後のアンケートでは「団体の活動と運営の仕方を見直すきっかけになった」、「助成金申請のプロセスがよくわかった」、「団体内で今日の内容を共有化したい」などの感想がありました。次回は申請書の書き方まで踏み込んだ講座を企画する予定です。ご期待ください。

新規登録団体の紹介 (平成30年5月31日現在)

☆**鎌倉の和塾**：茶道、香道を主体とした鎌倉という地域にふさわしい「和の文化活動」を通して、日々の暮らしの中で失われつつある品格、節度、美意識、友誼を取り戻し、人生を楽しく明るく朗らかに生きることを実感するための活動をしています。

☆**鎌倉市第一地区社会福祉協議会**：鎌倉市東部地域を中心とした自治会・町内会、商店会及び民生委員・児童委員、主任児童委員で構成されています。相互に連携、協力して地域住民の生活・福祉の向上を目指しています。

☆**青空自主保育やんちゃお**：自然の中で子ども自身が遊びを見つけて作りだしてほしいと願う、保護者たちによる手作りの会です。子どもと保護者で山歩きや海遊び、畑作業、季節の行事などを行っています。

☆**かまくら駅前蔵書室**：会員制の私設図書室。使い方は自由。読書だけでなくワークショップのスペースとしても活用でき鎌倉を愛する方々の交流の場となっている。学術・文化・芸術の情報発信も行っています。

NPOセンター鎌倉

〒248-0012 鎌倉市御成町18-10
TEL：0467-60-4555
FAX：0467-61-3928
E-mail：npo@chive.ocn.ne.jp

NPOセンター大船

〒247-0061 鎌倉市台1-2-25
(たまなわ交流センター1階)
TEL/FAX：0467-42-0345
E-mail：npo2@abelia.ocn.ne.jp

平成30年5月31日現在 **利用登録団体数：360団体**

※ 利用登録団体の登録内容(連絡先・代表者・活動内容等)に変更があった場合は、速やかにお知らせください。